３歳児　Ⅰ期（４月～５月上旬）

	① 生まれて初めて集団生活を経験する幼児	② 満３歳から入園し、入園から数か月集団生活を経験した幼児
ねらい	◎　喜んで登園する。 ◎　自分の学級担任が分かり、親しみをもつ。 ◎　所持品の始末や自分でできそうなことを、保育者と一緒にやってみようとする。	◎　新たな学級担任に親しみをもつ。 ◎　新入園児に親しみをもつ。 ◎　所持品の始末や自分でできそうなことを、保育者と一緒に、または一人でやってみようとする。
内容・活動等	●　自分の学級担任、保育室の場所、トイレの場所や、身支度の仕方などを知る。 ●　保育者を拠り所としながら、一緒に遊んだり、一緒に所持品の始末をしたりする。 ●　保育者に、やりたいことや困ったことなどを伝える。	●　自分の学級担任や友達が分かり、親しみをもって接する。 ●　所持品の始末の仕方やトイレの使い方などを知り、保育者と、または一人で行う。
◇環境構成	◆　緊張からくる疲れが予想されるので、午後は静的な遊びができる環境を整える。 ◇　遊具の場所や、所持品の始末の流れなどを視覚的に分かりやすく表示する。 ◇　トイレを落ち着いた気持ちで安心して利用できるよう、イラストを貼ったり、明るい配色の壁面装飾を施したりする。 ◇　遊び始めやすいように、家庭にあるような遊具を用意する。 ◇　同じ物を数多く用意し、「自分も使いたい」という気持ちに応えられるようにする。	◆　緊張からくる疲れが予想されるので、午後は静的な遊びができる環境を整える。 ◇　幼児クラスの環境に慣れるよう、生活の中で、トイレ、ホールなど様々な場に、少しずつ赴く機会を設ける。
☆保育者の援助	★　保育者から積極的に話し掛けたり、スキンシップを図ったりして、親しみをもてるようにする。 ☆　不安や緊張から保護者と離れるのが難しいときには、幼児の気持ちを受け止めながら、幼児がゆっくり気持ちを切り替えられるようにする。 ☆　話し掛けたり手をつないだりして触れ合い、温かい態度で接しながら、徐々に生活に慣れるようにする。 ☆　個人差が大きいことに配慮し、一人一人の気持ちや動きに応じた援助をする。	★　保育者から積極的に話し掛けたり、スキンシップを図ったりして、親しみをもてるようにする。 ☆　所持品の始末やトイレに一人で取り組もうとする気持ちがもてるよう、自分でやろうとしたことを認め、励ましながら、意欲を引き出す。

▲保育者間の連携（共通）
▲　一人一人の不安や緊張に応じられるよう、保育者間で連携を密にして丁寧に対応する。 ▲　教育活動での幼児の姿や食事、排せつの状況、保護者からの申し送り事項などを、長時間保育担当者（または預かり保育担当者）にしっかり引き継いでいく。 ▲　教育時間のみ利用の幼児の降園時に、迎えの様子が長時間保育の幼児に見えないよう、両方の保育者が、降園の場所、保育の場所に配慮する。

※　３歳児　Ⅰ期（４月～５月上旬）については、「教育活動」「預かり保育」「長時間保育」を包括して記述する。

③　満３歳未満から入園し、集団生活が長期にわたっている幼児	④　集団生活を経験しているが他の保育所等から入園した幼児
◎　新たな学級担任や、長時間保育の保育者等に親しみをもつ。 ◎　新入園児に親しみをもつ。 ◎　好きな遊びを見付けて遊ぶ。	◎　前所属園との生活習慣等の違いに慣れる。 ◎　新たな学級担任に親しみをもつ。
●　自分の学級担任や長時間保育の保育者、友達に親しみをもち、一緒に遊んだり過ごしたりすることを喜ぶ。 ●　自分の好きな場所、遊具等で遊ぶ。	●　自分の学級担任が分かり、親しみをもって接する。 ●　保育室の場所、トイレの場所、身支度の仕方、一日の生活の流れなどを知る。
◆　環境の変化や新入園児がいる生活からくる疲れが予想されるので、午後は静的な遊びができる環境を整える。 ◇　前年度の実態等から、幼児の興味・関心の傾向を踏まえ、遊具等を用意する。	◆　緊張からくる疲れが予想されるので、午後は静的な遊びができる環境を整える。 ◇　初めて使う遊具の扱い方や片付け方について、分かりやすい表示を掲示し、安全に扱えるよう配慮する。
★　保育者から積極的に話し掛けたり、スキンシップを図ったりして、親しみをもてるようにする。 ☆　進級に当たり不安な様子が見られる幼児には、甘えたい気持ちを受け止めながら、じっくり関わる。 　生活の仕方等、分かっていることを新入園児に伝えさせることで、新たな生活に意欲をもてるようにする。 ☆　保育者も一緒に遊び、幼児の気持ちに共感する。	★　保育者から積極的に話し掛けたり、スキンシップを図ったりして、親しみをもてるようにする。 ☆　様々な形で自分の気持ちを表してきた際には、しっかり受け止め、共感する。 　新しい環境に馴染めず不安な様子が見られる幼児には、じっくり関わり、幼児が好きな遊びを見付けられるよう援助することで、少しずつ不安を取り除くようにする。

■保護者との連携（共通）	
	■　母子分離が難しい幼児については、園での様子を丁寧に知らせ、家庭での様子を聞き取り、情報共有することで、徐々に安心して登園できるようにする。 ■　園生活についての心配事や疑問などを丁寧に聞き取ったり、その日の様子を知らせたりして、信頼関係を築いていく。 ■　安定した生活リズムを作れるよう働き掛ける。 ■　活動の様子を知らせるホワイトボードや連絡板に目を通してもらうように促す。 ■　新しい環境による疲れが予想されるため、家庭でも十分に休息をとってもらうことを話す。 ■　家庭でも、自分でできることが少しずつ増えるよう、取り組んでもらうことを話す。

３歳児　Ⅱ期（５月中旬～９月上旬）

	預かり保育	長時間保育
ねらい	◎　預かり保育での生活の仕方が分かる。 ◎　夏の遊びを楽しむ。 ◎　好きな遊びを見付けて遊ぶ中で保育者や友達とも関わりを楽しむ。	◎　衛生に注意し、衛生習慣を身に付け、気持ちよく元気に過ごす。 ◎　夏の遊びを楽しむ。。 ◎　好きな遊びを見付けて遊ぶ中で保育者や友達とも関わりを楽しむ。
内容・活動等	●　預かり保育室での所持品の始末の仕方や間食の食べ方などが分かり、自分でできることをやってみる。 ●　預かり保育での生活に必要なきまりがあることを知る。 ●　預かり保育室で、気に入った遊具や遊びを見付けて、やりたい遊びを楽しむ。 ●　水や砂、泥などの感触を楽しむ。 ●　虫や小動物に触れ、興味をもつ。 ●　保育者に親しみをもち、一緒に遊んだり、困っていることを伝えたりする。 ●　遊びを介して友達との関わりに必要な言葉を言おうとする。	●　保育者の声掛けをきっかけにして、手洗いやうがいを自分でやろうとする。 ●　汗をかいたり汚れたりしたら自分で衣服を着替えようとする。 ●　水分をとり、気持ちよく過ごす。 ●　適度な休息をとる。 ●　尿意を感じたらトイレに行き、排尿する。 ●　水や砂、泥などの感触を楽しむ。 ●　虫や小動物に触れ、興味をもつ。 ●　遊びを介して友達との関わりに必要な言葉を言おうとする。

◇環境構成	◆　暑い時期は疲れやすいので寝転がることができるござやマットなどを用意しておき、くつろいだり休憩したりできる場を作る。 ◆　食欲が低下しやすい時期なので、間食や夕方の補食は食欲が出るよう、気温を調節して涼しい部屋で食べられるようにする。 ◆　十分な休息がとれるよう、気温や湿度の調節に気を付ける。 ◆　雨の日や暑い日の午後などは戸外で遊べないこともあるので、必要に応じてホールなどの室内で巧技台や体を動かせる遊びができるようにする。 ◆　泥や水の感触が楽しめるように、砂場の道具や水を用意しておく。 ◆　夏は昆虫がたくさん見られる時期なので、図鑑や写真絵本などを用意し、興味をもって見られるようにする。	
	◇　初めての預かり保育で安心して過ごせるよう、生活の流れや方法を毎日同じようにする。 ◇　支度の仕方や自分の場所などが分かりやすいように、絵や写真の表示を用いて視覚的に手順などを示しておく。	◇　視覚で分かりやすいように手順などを示して、自分で手を洗ったりうがいをしたりする気持ちをもてるようにする ◇　脱いだ衣服とこれから着る衣服が混ざらないよう、幼児に分かりやすい手順や動線を考えておく。

<table>
<tr><th></th><th>預かり保育</th><th>長時間保育</th></tr>
<tr><td rowspan="2">☆保育者の援助</td><td colspan="2">★　水分をこまめにとるよう、意識して声を掛ける。
★　着替えは個人のペースに差がかなり出るので、十分な時間を設定するとともに、「自分でできたね」などの声掛けをして意欲や自信がもてるようにする。
★　遊具の取り合いになったときは互いの気持ちをしっかり聞いて関わりに必要な言葉を添え、関係が築けるようにする。</td></tr>
<tr><td>☆　預かり保育の場にいることが楽しい時間になるよう、温かい言葉を掛けながら楽しい雰囲気作りに努める。
☆　生活の中で難しいところは手伝い、安心して過ごせるようにする。
☆　信頼関係ができるまで、保育者にトイレに行きたいことを言えない幼児もいるので優しく声を掛けたり、失敗してしまったときもそっと誘って取り替えたりする。</td><td>☆　夏は細菌が繁殖しやすいことを分かりやすく伝えるとともに、手洗いについては洗い方を見届ける。
☆　難しいところは手伝いながら、自分でやろうとしている気持ちをしっかり認める。
☆　遊びに夢中になり、排せつをぎりぎりまで我慢して失敗してしまうこともあるが、おおらかな気持ちで接する。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">△保育者間の連携</td><td colspan="2">▲　プール・水遊びの予定や内容など、教育活動時の保育内容について情報を共有し、一日の生活の中で静と動のバランスを考える。
▲　梅雨以降、気候の変化で体調を崩す幼児も出てくるので、一人一人の体調に配慮する。
▲　夏季休業中は様々な保育者が保育にあたるので、学級担任は日頃の幼児の様子について事前に伝えておく。特に配慮を要する幼児の情報は丁寧に伝えるようにする。
▲　夏季休業明けは生活のリズムが変わり、疲れが出やすい時期であるので、一人一人の様子を丁寧に把握し、引継ぎをする。</td></tr>
<tr><td></td><td>△　他のクラスと一緒にプールに入ったり交流したりする際は、内容や時間などを保育者間で十分に話し合い、連携して準備する。</td></tr>
<tr><td>□保護者との連携</td><td>□　長時間の保育では疲れが見られることも予想されるので、必要に応じて横になって休息できるよう、バスタオルなどの準備を依頼する。</td><td>□　汗をかいたりうがいで汚れたりして着替える回数が多くなることを伝え、着替えを多めに持ってきてもらうよう伝える。また、自分で始末をした際に間違えていても、自分からやろうとしたことを認めてあげてほしいことなどを伝える。
□　夏は体が疲れやすいことや夏特有の病気が流行することを伝え、家庭でも十分に睡眠や栄養がとれるよう配慮してもらう。</td></tr>
</table>

3歳児　Ⅲ期（９月中旬～１０月）

	預かり保育	長時間保育
ねらい	◎ 預かり保育での生活の仕方が分かり、安心して過ごす。 ◎ 自分のやりたい遊びを見付けて楽しむ。	◎ １日の気温の変化、季節の変化に合わせ衣類を調節して、気持ちよく過ごす。 ◎ 運動会の取組を楽しみにし、覚えたことを再現して楽しむ。 ◎ 簡単なルールのある遊びを楽しむ。
内容・活動等	● 預かり保育室での所持品の始末の仕方や間食の食べ方などが分かり、自分でできることをやってみる。 ● 預かり保育での生活に必要なきまりがあることを知る。 ● 預かり保育室で、気に入った遊具や遊びを見付けて楽しむ。 ● 預かり保育担当の保育者に親しみをもち、一緒に遊んだり、困っていることを伝えたりする。	● 汗の始末や汚れた衣類の始末を自分でやろうとする。 ● 適度に休息をとる。 ● 自分からトイレへ行き、排泄する。 ● 自分の身の回りのことを自分でやろうとする。 ● 保育者や友達と体を動かす遊びをして楽しむ。 ● 4・5歳児にあこがれの気持ちをもち、動きを真似て楽しむ。

◇環境構成	◆ 運動会の遊びが午後にも楽しめるように、道具やラインカーなどを準備しておく。 ◆ 体を動かすことが心地よい季節なので、様々な動き（走る、跳ぶ、くぐる、またぐなど）が楽しめるように園庭の環境を整える。 ◆ 運動会終了後も余韻を楽しめるように、運動会で使った道具を使いやすく置いておく。 ◆ 日没が早くなってくるために、室内の遊具を見直して種類を増やしたり、新しい遊具を出したりして夕方の時間が楽しく過ごせるようにする。 ◆ 教育活動で体をよく動かしているので、夕方は疲れがたまらないよう早めに室内に入り、静かな遊びを楽しめるようにする。	
	◇ 幼児が物の置き場所が分かり、安心して自分から動き出すことができるように、所持品の置き場所に目印を付ける、遊具や用具の場所に絵や写真の表示を付けるなど、環境を工夫する。 ◇ 落ち着いて楽しく間食をとることができるように、視覚的教材を使って手順を知らせたり、座る位置に配慮したりする。 ◇ 降園身支度の仕方が分かるように、手順を視覚的に示す、一人一人のペースに合わせた時間を確保するなどの工夫を行う。 ◇ 一人一人が、自分のやりたい遊びを見付けて落ち着いて遊ぶことができるように、遊具の種類や量に配慮する。 ◇ 長時間の活動で疲れが出ることもあるので、必要に応じて休息がとれるスペースを作っておく。	

	預かり保育	長時間保育
☆保育者の援助	★　名前を呼んだり、笑顔で話し掛けたり、一緒に遊んだりしながら、一人一人の幼児と信頼関係を築く。 ★　できるようになったことなどを見てほしがったとき、幼児の気持ちに共感して自信がもてるように認める。 ★　4・5 歳児の行動を「かっこいいね」と褒め、憧れの気持ちがもてるようにする。 ★　体を動かすことに自信がついてきて、以前よりも動きが大きくなってけがをすることもあるので注意して見守る。 ★　日没が早くなり暗くなったとき、保護者の迎えが遅いと心配する幼児もいるので、安心できるように話をしたり、一緒に遊んだりして不安な気持ちを和らげる。	
	☆　幼児が困ったり不安になったりする姿が見られたときは、その気持ちに寄り添い、そっと手助けをしたり、声を掛けたりして、安心して過ごせるようにする。	☆　行事への期待をもって生活する中で、自分の身の回りのことも意欲的に取り組もうとするので、その気持ちをしっかり認めていく。幼児が自分の力でできているかを見守り、必要な時は援助したり声を掛けたりする。

△保育者間の連携	▲　運動会へ向けた計画について、保育者間で話し合う機会をもち、共通理解を図る。 ▲　それぞれの時間帯の保育を見合う時間をもつ。運動会の練習を参観し、その日の保育を構成するための参考にする。 ▲　運動会の取組を受けて、踊ったり走ったりして楽しむ幼児が増えるため、安全に遊ぶことができるように場を確保したり保育者が連携して見守ったりする。

□保護者との連携	■　幼児が運動会への取組を通して初めて大きい行事に参加することへの喜びや緊張などを感じている姿を伝え、家庭でもその気持ちに共感してほしいことを話す。また、いつもと違う取組に参加することで疲れが出ることもあるため、十分に休息をとってもらうよう伝える。	
	□　長時間の保育では疲れが見られることも予想されるので、必要に応じて横になって休息できるよう、バスタオルなどの準備を依頼する。	